

四日市空襲がありました

1945. 6. 18

私たちが生活している四日市市は、昭和20年6月18日大規模な空襲に見舞われ、その後8月8日まで計9回の空襲により、800人以上の市民の尊い命が奪われました。四日市市では、その悲劇を後世に伝えようと、毎年6月18日に、鶉の森公園内の四日市空襲殉難碑前にて献花式を行っています。78年前の昭和16年(1941)12月8日、日本は真珠湾を攻撃して、アメリカと戦争を始めます。そして、早くも翌年の17年4月18日、東京名古屋・大阪などの大都市が空襲を受けます。それは、アメリカ軍のB29によるものでした。海軍第二燃料廠をはじめ多くの工場群を擁した四日市は、アメリカ軍の重要攻撃目標とされました。



1945年(昭和20年)6月18日午前0時45分、アメリカ軍B-29戦略爆撃機89機が焼夷弾11,000発・567.3トン进行投下。約1時間の絨毯爆撃で全市の35%が焼失、市街地は焦土と化しました。6月18日の被害は大きく、死者505人、重軽傷503人、焼けた家は9,372戸にもものぼり、市民は茫然(ぼうぜん)自失(じしつ)の状態だったそうです。以後、8月8日まで合計9回の空襲を受け、海軍燃料廠をはじめとする工場群は壊滅的被害を受けました。全空襲による人的被害は、被災者49,198人、死者808人、負傷者1,733人、行方不明者63人にのぼりました。



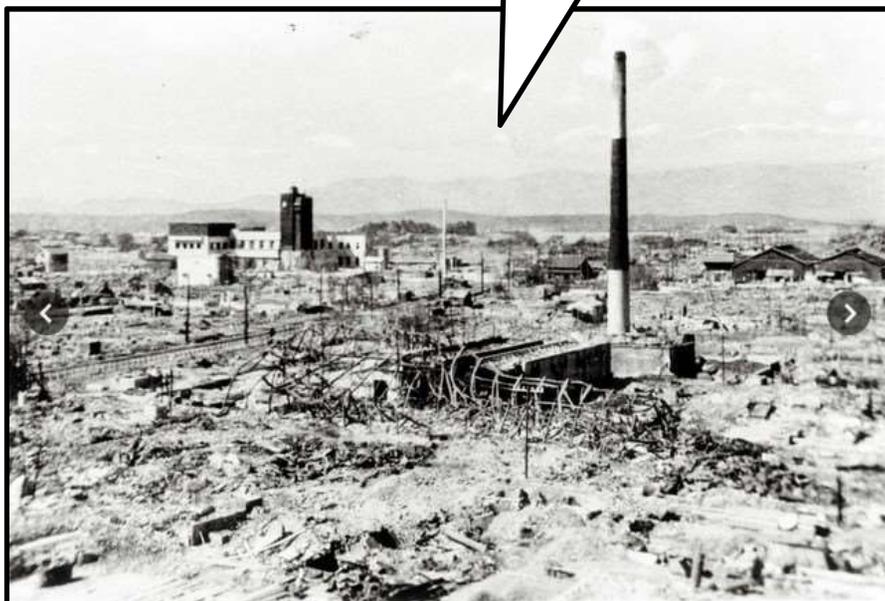
殉難碑撰文

昭和十六年十二月八日に勃発した太平洋戦争は、ポツダム宣言受諾によって、同二十年八月十五日遂に我が国の敗戦に終った。この間、アメリカ空軍重爆撃機B29による日本本土への空襲は日ましに激化し、戦禍はとどまるところを知らなかつた。海軍燃料廠をはじめ多くの工場群を擁した四日市市も、前後六回にわたる苛烈な爆撃により壊滅的被害を受けた。わけても最初の爆撃を受けた六月十八日の災禍は懐愴の一語に尽きる。即ち午前零時四十五分頃から約一時間にわたり、B29三十五機の、三万発におよぶ油脂焼夷弾等の絨毯爆撃により市街地は灼熱のるつぽと化し、退路を断たれた多くの市民は、阿鼻叫喚の巷を彷徨した。炎の犠牲となるもの、壕に閉され窒息死するもの、身をかえりみず消火に一命を賭するもの、あわせて八百余名にのぼった。恐怖の一夜が明けると、一望焦土と化した焼跡に、ただ呆然とたたずむもの、未だ硝煙のくすぶる中を、肉親を求めて右往左往するもの、まさに戦争のうんだ悲劇である。終戦後三十五年を経た今日、各方面の浄財によって、ここに新しく四日市空襲殉難碑を建立しその霊の安らかなることを願い、後世悲惨なる戦争の絶滅を期し、世界永久の平和を祈念するものである。

被爆年月日昭和二十年六月十八日、同二十二日、同二十六日、同七月九日、同二十四日、同二十八日
戦災死者八百余名 重軽傷者一、七三三人 被災人口四九、一九八人 被災戸数一〇、四七八戸
昭和五十五年六月
四日市空襲殉難碑建立委員会

碑の裏面に刻まれています。

四日市空襲で破壊された市中心街の焼け跡。左の建物は市役所



市民約800人が犠牲になった四日市空襲から今年で76年を迎えます。毎年この時期に三重県四日市市は、「四日市空襲犠牲者慰霊献花式」を開いています。

四日市博物館では、『四日市空襲と戦時下の暮らし』の催しが6月15日～9月5日まで開催される予定です。その中で、6月20日に予定されていた【四日市を語り継ごう】については、まん延防止等重点措置のために8月15日に変更となっています。

この機会に、今一度戦争の悲惨さ、平和と命の尊さについて学習しましょう。

また、犠牲者を追悼するとともに平和を祈念しましょう。